

副町長あいさつ(藤田副町長)

まち・ひと・しごと創生会議に出席いただきましたこと、心から感謝申し上げます。本来であれば挨拶ということで、齋町長がご挨拶をするところでございますけれども、実は今日から金曜日まで東京で、政府への要望活動で出張しております、私、副町長の藤田と申しますが、代役をさせていただきたいと思っていたところでございます。

司会の方から今回初めて、年度初めてという話がありました。本来ならば挨拶は短い方がよろしいのでしょうか、町もですね、新しい取り組みをしているところでございますので、少しお時間をいただいております。話をさせていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

まだまだウィズコロナの状況ではありますけれども、これからやっぱりアフターコロナ、あるいはポストコロナという形の中で、町民の生活とか暮らしをですね、しっかりと整えることが、これからのまちづくりになるのだろうな、と思っております。

そしてコロナ禍で学んだことの中に、健康の大切さであったり、人と人の繋がり、人と地域の繋がり、こういった大切なものですね、改めて痛感したところでございます。

その一方で、人口減少、少子化、高齢化が全く止まらないという状況であります。

皆さんもご存知の通り、2025年、あと2年しかないんですよね。75歳以上の方が、4人に1人になる。裏返せば、社会保障費の問題であったり、要介護であったり、認知症であったり、そういったところを危惧されますし、なんといっても労働人口の減少ということが非常に大きな心配事だと思いますし、さらに怖いのはですね、そこからスタートするんだというふうに考えると、毎年そういったことがですね、加速度的に、進んでいくのかなというふうに思っていたところでございます。そんなことを踏まえると行政としても、まちづくりに関してはですね、これまで通りの考え方であったり、手続きであったり、そういったことにとらわれることなく、新しい価値を創造するような取り組みが必要だというふうに思っていたところでございます。

今、大河原町はですね、Well-beingという言葉ですね、まち作りのキーワード、あるいはパワーワードとしたいというふうに思っていたところでございます。

Well-beingはまだまだ認知度は低いですが、直訳すると幸福ということなんです。持続する幸せとも言われておまして、こういったことをですね、皆さんも含めて社会全体で追求していくことが、これから認められることなのかなというふうに思っているところでございます。併せてスポーツを活用した、まちづくりもですね、Well-beingなまち作りということで、庁舎内に新たなスポーツまちづくり推進課を設置しましてですね、スポーツの力を十分に発揮しながらですね、フル活用したまちづくりをしたいというふうに思っていたところでございます。

Well-beingの町としての理解はですね、心も体も健康で、幸福な状態が続くということにしております。

どのような社会あるいは経済環境にあってもですね、皆さんで幸せを追求することが選ばれたまちであったり、住みたくなる町だったり、そういった町として、大河原町が評価されるのかなというふうに思っておりました。どうぞ皆様、Well-beingなまちづくりにですね、ご理解とご協力をいただきまして、これからはですね、まちづくりに参加していただきたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。本日ありがとうございました。ご苦労様でございます。